

令和元年度

学校自己評価表（結果）

学校運営計画					
学校運営方針	(1)一人一人が、第一に希望する進路を実現できる学校 (2)人のために汗を流すことができる若者を育てる学校 (3)郷土を愛する心を育てることで、地域から信頼される学校 (4)いじめを見逃さず、いじめを許さない意識を高める学校				
昨年度の成果と課題	平成31年度の重点目標	具体的目標			
<p>学力の充実、進路希望の達成等、教科指導・進路指導等においては、おおむね目標を達成でき、とくに国公立大学合格者数については過去最高の実績をあげることができた。キャリア教育では、生徒の就業意欲と進路意識を向上させるために、工業科においてインターンシップ、デュアルシステムへの取り組みが効果を上げている。今年度は一部普通科生徒のインターンシップも実施した。今後は普通科のキャリア教育にも力を入れることが課題である。生徒指導面については、職員が協力して生徒の規範意識向上に取り組む、落ち着いた状況にあった。部活動では複数の部が県大会で優勝あるいは上位入賞して全国大会、北信越大会出場を果たし、学校の活性化につながった。次年度は高大接続、大学入試改革を見据え、新たに導入された電子黒板の活用等を通じて、さらなる授業改善を進める中で、取り組みの一層の充実を図りたい。</p>	①学習指導(各教科、教務) 進路希望実現に向けた基礎学力の向上	基礎的・基本的な学力の向上と定着を目指し、個々の生徒に応じたきめ細かな学習指導を行う。また、生徒の進路希望を実現するために必要な学力を効果的に身につけさせる。			
	②キャリア教育(各学年、総合的な学習の時間) 就業意欲及び進路意識の向上	望ましい職業観・勤労観を育むために、職業との関連を考えさせる指導を行い、自己の適性や能力を理解して、主体的に進路選択する能力を育成する。			
	③進路指導(進学指導、就職指導) 個々の生徒に応じた進路指導の充実	生徒の進路希望を実現するために、生徒の興味・関心・適性・能力に応じたきめ細かな進路指導を行う。			
	④生徒指導(各学年、生徒指導等) 基本的生活習慣の確立と定着	マナーと節度のある生徒を育てるために、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を向上させる。			
	⑤人権・同和教育(同和教育・学校全体) 人との協調と豊かな心を育む教育の充実	思いやりのある豊かな心を持った生徒を育てるために、人権を尊重する教育をとおして、様々な人権に対する課題を理解させる。			
	⑥特別活動(生徒会・学校全体) 部活動等の特別活動の活性化	生き生きと学校生活をおくる姿勢を育てるために、部活動をはじめ、特別活動に積極的に参加させる。			
	⑦情報公開(情報教育・厚生渉外・学校全体) 積極的な広報活動の展開	PTA活動等を活性化し、情報発信を促進する。			
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
①学習指導 進路希望実現に向けた基礎学力の向上	基礎的・基本的な学力の向上と定着を目指し、個々の生徒に応じたきめ細かな学習指導を行う。また、生徒の進路希望を実現するために必要な学力を効果的に身につけさせる。	①シラバスを活用し、毎時間の授業を大切に学習習慣を身につけさせる。	3.0		
		②週末課題等を利用し、生徒の家庭学習を習慣化させ、平日の家庭学習の平均時間が学年+1時間以上となるよう学習意欲の向上に努める。	4.0 3.3		
		③普通・工業科の進路希望に応じた教育課程を研究し、常に改善を図る。	3.0 3.3		
		④生徒の主体的な学習を進めるため、指導方法の改善に努め、教科ごとの研修を実施する。	3.0		
		⑤授業や日常の学習を大切にするとともに、補習等を積極的に実施する。	2.8 3.3		
		⑥資格取得の奨励と競技設計や高校生ものづくり大会等の各種コンテストへの積極的な参加を促し、学習指導の充実を図る。	4.0		
②キャリア教育 就業意欲及び進路意識の向上	望ましい職業観・勤労観を育むために、職業との関連を考えさせる指導を行い、自己の適性や能力を理解して、主体的に進路選択する能力を育成する。	①工業科において、インターンシップ及びデュアルシステムを実施する。	4.0		
		②職員間で情報を密にして、適切なキャリアカウンセリングを実施する。	3.0 3.3 3.3		
		③各種調査等により、生徒の実態把握と生徒理解の充実を図る。	3.0		
		③進路指導 個々の生徒に応じた進路指導の充実	生徒の進路希望を実現するために、生徒の興味・関心・適性・能力に応じたきめ細かな進路指導を行う。	①センター試験受験者に対して特編授業等を展開する。国公立大学合格者数の目標を70人以上として、後期試験まで粘り強く指導を展開する。	2.5
				②模擬試験のデータの的確で有効な活用を図るため、職員会議等でデータを公表し、学年や教科で対策を講ずる。また、進学指導部と学年の連絡会議を定期的で開催し、連携を図る。	3.0 2.9
				③進学指導のための職員研修会を開催し、進学指導力の向上に努める。	3.0
				④PTAとの連携や協力を密にし、保護者や生徒対象の進学講演会と懇談会等を開催する。	3.0
				⑤就職希望者に対して就職模試や公務員模試の受験を奨励し、進路意識と学力の向上を図る。	4.0 3.3
				⑥求人情報等の資料を適正に整理するとともに、職場開拓を進める。	3.0
⑦就職説明会の実施とHR指導及び個別指導を実施する。	3.0 3.6				
④生徒指導 基本的生活習慣の確立と定着	マナーと節度のある生徒を育てるために、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を向上させる。	①授業や日常生活の中で、全教職員による「声掛け」を徹底し、校内の活性化を図ると共に、生徒の言葉使い・挨拶・集団での行動様式の指導を行い、礼儀正しい生徒の育成を図る。	3.0		
		②身だしなみ検査や朝の登校指導を定期的に行う。	3.0		
		③交通講話、自転車の管理、バイク実技指導等を実施するとともに、地区連絡協議会、地区PTA等の活動と連携し、事故・違反「ゼロ」の達成に努め、交通安全意識の高揚を図る。	3.0 3.0 3.0		
		④特別指導が必要な生徒に対しては、生徒指導部・学年・家庭の連携のもとに継続的な指導を展開する。	3.0		
		⑤いじめについては、生徒指導部・学年・家庭等と連携し、「いじめ防止対策委員会」、「いじめ対応委員会」において組織的に対応する。	3.0		
⑤人権・同和教育 人との協調と豊かな心を育む教育の充実	思いやりのある豊かな心を持った生徒を育てるために、人権を尊重する教育をとおして、様々な人権に対する課題を理解させる。	①「生きるV」の活用を図り、授業での活用を研究する。	3.0		
		②人権・同和教育講演会を実施し、人権意識を育成する。	4.0 3.3 3.3		
		③職員対象の同和教育研修会を実施し、人権意識を向上させる。	3.0		
⑥特別活動 部活動等の特別活動の活性化	生き生きと学校生活をおくる姿勢を育てるために、部活動をはじめ、特別活動に積極的に参加させる。	①生徒の自主的な取り組みにより、生徒会活動を充実させる。	3.0		
		②体験入学やボランティア活動に積極的に参加し、学校外へも活動の幅を広げる。	3.0 3.0 3.0		
		③日常の部活動の成果を、学校の活性化に役立てる取組を行う。	3.0		
⑦情報公開 積極的な広報活動の展開	PTA活動等を活性化し、情報発信を促進する。	①PTA各種専門委員会活動を推進し、PTA活動の活性化と連携を深める。	3.0 3.0 3.0		
		②学校ホームページの充実を図る。	3.0		
成果	学習指導では朝学習の定着化をはかることで、基礎学力を向上させた。進学指導では、PTAとの連携や協力を密にし、生徒の自己実現に向けて細かい進学指導を行った。キャリア教育では、生徒の就業意欲と進路意識を向上させるためにインターンシップ、デュアルシステムへの取り組みが効果を上げている。生徒指導では登校指導を有効に活用し、生徒の社会性の更なる向上に努めた。定期的に行われる身だしなみ検査は着実に効果をあげ、生徒の規範意識は高い。特別活動では、地区の学習ボランティアに参加するなど、ボランティア意識の向上がみられる。	総合評価 3.2 (4段階中)			

令和2年度

学校自己評価表 (計画)

学校運営計画			
学校運営方針	(1)一人一人が、第一に希望する進路を実現できる学校 (2)人のために汗を流すことができる若者を育てる学校 (3)郷土を愛する心を育てることで、地域から信頼される学校 (4)いじめを見逃さず、いじめを許さない意識を高める学校		
昨年度の成果と課題	令和2年度の重点目標	具体的目標	
<p>学力の充実、進路希望の達成等、教科指導・進路指導等においては、おおむね目標を達成することができた。</p> <p>キャリア教育では、生徒の就業意欲と進路意識を向上させるために、工業科においてインターンシップ、デュアルシステムへの取り組みが効果を上げている。また、今年度も一部普通科の生徒に対してもインターンシップを実施した。今後は普通科のキャリア教育にも継続して力を入れることが課題である。</p> <p>生徒指導面については、職員が協力して生徒の規範意識向上に取り組み、生徒は落ち着いた状況で学校生活を送っていたが、やや長期欠席の生徒が増え、教育相談にも力を入れる必要がある。</p> <p>部活動では複数の部が県大会で優勝あるいは上位入賞して全国大会、北信越大会出場を果たし、学校の活性化につながった。</p> <p>次年度は高大接続、大学入試改革を見据え、新たに導入された電子黒板の活用等を通じて、さらなる授業改善を進める中で、取り組みの一層の充実を図りたい。</p>	①学習指導(各教科、教務) 進路希望実現に向けた基礎学力の向上	基礎的・基本的な学力の向上と定着を目指し、個々の生徒に応じたきめ細かな学習指導を行う。また、生徒の進路希望を実現するために必要な学力を効果的に身につけさせる。	
	②キャリア教育(各学年、総合的な学習・探究の時間) 就業意欲及び進路意識の向上	望ましい職業観・勤労観を育むために、職業との関連を考えさせる指導を行い、自己の適性や能力を理解して、主体的に進路選択する能力を育成する。	
	③進路指導(進学指導、就職指導) 個々の生徒に応じた進路指導の充実	生徒の進路希望を実現するために、生徒の興味・関心・適性・能力に応じたきめ細かな進路指導を行う。	
	④生徒指導(各学年、生徒指導等) 基本的生活習慣の確立と定着	マナーと節度のある生徒を育てるために、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を向上させる。	
	⑤人権・同和教育(同和教育・学校全体) 人との協調と豊かな心を育む教育の充実	思いやりのある豊かな心を持った生徒を育てるために、人権を尊重する教育をとおして、様々な人権に対する課題を理解させる。	
	⑥特別活動(生徒会・学校全体) 部活動等の特別活動の活性化	生き生きと学校生活をおくる姿勢を育てるために、部活動をはじめ、特別活動に積極的に参加させる。	
	⑦情報公開(情報教育・厚生渉外・学校全体) 積極的な広報活動の展開	PTA活動等を活性化し、情報発信を促進する。	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
①学習指導 進路希望実現に向けた基礎学力の向上	基礎的・基本的な学力の向上と定着を目指し、個々の生徒に応じたきめ細かな学習指導を行う。また、生徒の進路希望を実現するために必要な学力を効果的に身につけさせる。	①シラバスを活用し、毎時間の授業を大切に学習習慣を身につけさせる。 ②週末課題等を利用し、生徒の家庭学習を習慣化させ、平日の家庭学習の平均時間が学年+1時間以上となるよう学習意欲の向上に努める。 ③普通・工業科の進路希望に応じた教育課程を研究し、常に改善を図る。 ④生徒の主体的な学習を進めるため、指導方法の改善に努め、教科ごとの研修を実施する。 ⑤授業や日常の学習を大切に育てるとともに、補習等を積極的に実施する。 ⑥資格取得の奨励と競技設計や高校生ものづくり大会等の各種コンテストへの積極的な参加を促し、学習指導の充実を図る。	
②キャリア教育 就業意欲及び進路意識の向上	望ましい職業観・勤労観を育むために、職業との関連を考えさせる指導を行い、自己の適性や能力を理解して、主体的に進路選択する能力を育成する。	①工業科において、インターンシップ及びデュアルシステムを実施する。 ②職員間で情報を密にして、適切なキャリアカウンセリングを実施する。 ③各種調査等により、生徒の実態把握と生徒理解の充実を図る。	
③進路指導 個々の生徒に応じた進路指導の充実	生徒の進路希望を実現するために、生徒の興味・関心・適性・能力に応じたきめ細かな進路指導を行う。	①センター試験受験者に対して特編授業等を展開する。国公立大学合格者数の目標を70人以上として、後期試験まで粘り強く指導を展開する。 ②模擬試験のデータの確実な有効活用を図るため、職員会議等でデータを公表し、学年や教科で対策を講ずる。また、進学指導部と学年の連絡会議を定期的開催し、連携を図る。 ③進学指導のための職員研修会を開催し、進学指導力の向上に努める。 ④PTAとの連携や協力を密接にし、保護者や生徒対象の進学講演会と懇談会等を開催する。 ⑤就職希望者に対して就職模試や公務員模試の受験を奨励し、進路意識と学力の向上を図る。 ⑥求人情報等の資料を適正に整理するとともに、職場開拓を進める。 ⑦就職説明会の実施とHR指導及び個別指導を実施する。 ⑧就職採用試験の事前指導と模擬面接等を実施する。 ⑨進路意識を明確にするために進路説明会で大学・職安等から具体的に説明してもらう。	
④生徒指導 基本的生活習慣の確立と定着	マナーと節度のある生徒を育てるために、基本的生活習慣を確立させ、規範意識を向上させる。	①授業や日常生活の中で、全教職員による「声掛け」を徹底し、校内の活性化を図ると共に、生徒の言葉使い・挨拶・集団での行動様式の指導を行い、礼儀正しい生徒の育成を図る。 ②身だしなみ検査や朝の登校指導を定期的に行う。 ③交通講話、自転車管理、バイク実技指導等を実施するとともに、地区連絡協議会、地区PTA等の活動と連携し、事故・違反「ゼロ」の達成に努め、交通安全意識の高揚を図る。 ④特別指導が必要な生徒に対しては、生徒指導部・学年・家庭の連携のもとに継続的な指導を展開する。 ⑤いじめについては、生徒指導部・学年・家庭等と連携し、「いじめ防止対策委員会」、「いじめ対応委員会」において組織的に対応する。	
⑤人権・同和教育 人との協調と豊かな心を育む教育の充実	思いやりのある豊かな心を持った生徒を育てるために、人権を尊重する教育をとおして、様々な人権に対する課題を理解させる。	①「生きるV」の活用を図り、授業での活用を研究する。 ②人権・同和教育講演会を実施し、人権意識を育成する。 ③職員対象の同和教育研修会を実施し、人権意識を向上させる。	
⑥特別活動 部活動等の特別活動の活性化	生き生きと学校生活をおくる姿勢を育てるために、部活動をはじめ、特別活動に積極的に参加させる。	①生徒の自主的な取り組みにより、生徒会活動を充実させる。 ②体験入学やボランティア活動に積極的に参加し、学校外へも活動の幅を広げる。 ③日常の部活動の成果を、学校の活性化に役立てる取組を行う。	
⑦情報公開 積極的な広報活動の展開	PTA活動等を活性化し、情報発信を促進する。	①PTA各種専門委員会活動を推進し、PTA活動の活性化と連携を深める。 ②学校ホームページの充実を図る。	
成果			総合評価